

広島大学

令和 8 年度一般選抜(前期日程)・
総合型選抜外国人留学生型 2 月実施

解答例・出題の意図等

科目名：

英語

解答の公表に当たって、一義的な解答が示せない記述式の問題等については、「出題の意図又は複数の若しくは標準的な解答例等」を公表することとしています。

また、記述式の問題以外の問題についても、標準的な解答例として正答の一つを示している場合があります。

令和8年度 外国語（英語）解答例

高等学校学習指導要領に基づいて身に付けた英語学力を、本学のアドミッションポリシーに沿って活用できるかどうかを問う問題を出題した。

[1]

【出題意図】 文章全体のテーマと関連させつつ、各段落の内容を適切に読む力を問う。

【解答例】

第2段落

犬はよく昼寝をするが睡眠全体の長さは様々な要因で変わる。飼い慣らされて睡眠が変質したというより、人間の生活に合わせて調整されているのだろう。

第3段落

犬にも睡眠サイクルがあり、レム睡眠は人間より長い。だが人馴れした狼より短いことから、飼い慣らしと深い睡眠サイクルの関係に新たな疑問がわく。

第4段落

犬はレム睡眠明けに一瞬目覚めてまた眠る。危険を察知する生存戦略だが、このために犬は変化への順応がうまく、人間との生活にも順応できている。

第5段落

感情と睡眠の関係を調べたところ、ストレスを受けた犬はレム睡眠が長くなっていた。人間同様、犬も眠りによってストレスを解消しているのだろう。

第6段落

犬と人間の睡眠パターンは似ており、犬で睡眠障害が調査されている。今後、老犬の睡眠の調査から、人間の認知の低下について洞察が得られるだろう。

[II]

【出題意図】 同じ事象に関するふたつの異なる文章を読み比べることで、より正確な情報を取り出す力を問う。

【解答例】

問 1. (3)

問 2.

(A)(ウ), (B)(エ), (C)(ア), (D)(オ), (E)(イ)

問 3. secured chamber

問 4.

旧石器時代から古代スーダン諸王国の時代、特にスーダンのファラオが古代エジプトの大部分を支配した紀元前 8 世紀から 7 世紀のナパタ時代、スーダンにピラミッドが建設されたメロエ時代に加え、後のキリスト教やイスラム教の時代を含む長い歴史

問 5.

ライオンの石像の列やファラオ式の巨像やファラオ式の寺院

問 6.

(1) (a)エジプト (b)20,000 あるいは 2 万 (c)14,000,000 あるいは 1400 万 (d)3

(2) [2]

問 7.

(1), (3)

[III]

【出題意図】 質問文を適切に読み取った上で、質問文に含まれている考えに対する自らの意見を、英語の一般的なパラグラフ構造に準じて、適切な英語表現を用いて書く力を問う。

【解答例】

I agree with the idea that creativity might be key to finding success in one's life and career. When I write song lyrics or send a funny video I made to my friends, I experience the joy of creating and sharing something new. This reduces my feelings of stress and encourages me to connect with others. The creative thinking it takes to do these activities might help me to handle unexpected situations in my future job. Overall, I think that bringing a creative attitude to challenges makes us more enthusiastic about life, and might also improve our ability to solve future problems at work. (104 words)

[IV]

【出題意図】 ある調査結果から正確に読み取った情報ならびにそれに関する考察を、英語の一般的なパラグラフ構造に準じて、適切な英語表現を用いて書く力を問う。

【解答例】

The graph shows a trend depicting an increase in meat consumption and a decrease in seafood consumption within Japan across three decades. After some variations, the number of kilograms of seafood consumed per person begins to decrease by almost half, from around 40 kilograms in 2001 to about 22 kilograms in 2023. In contrast, meat consumption per person grew from around 26 kilograms in 1989 to about 34 kilograms in 2023. One reason could be that overfishing leads to fewer fish, making them more expensive. This could influence Japanese consumers to buy meat, which is seen as being cheaper, instead. (100 words)

グラフの変化の傾向が説明できていれば、数値の多少の誤差は問わない。